

学校運営連絡協議会実施報告

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立桜修館中等教育学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教務主任）事務局長、他主幹教諭2名 計3名
- (3) 内部委員の構成：校長、副校長、副校長、経営企画室長、総務部主任、教務部主任、生徒部主任、進路指導部主任 計8名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大正大学教授）、私立教育研究所副代表、PTA会長、同窓会理事（都立大附属高校）、近隣中学校長（目黒区立中）、近隣小学校長（目黒区立小）、近隣警察署安全課係長、目黒区教育委員会生涯学習課長、首都大学東京名誉教授、都立大学駅商店街役員 計10名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和2年6月11日（木）新型コロナウイルス感染症対応のため中止
内容：協議委員委嘱、協議委員紹介、学校評価委員の選出、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡、協議会の報告
 - 第2回 令和2年11月27日（金）新型コロナウイルス感染症対応のため中止
内容：学校の教育活動に関する報告、学校評価アンケートの内容
 - 第3回 令和3年2月25日（木）新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン（Zoom）で実施
内容：学校の教育活動に関する報告、学校評価結果の報告及び学校運営に関する提言・協議
次年度の学校経営計画立案に向けた方向性の確認、意見交換
- (2) 学校評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和2年6月11日（木）新型コロナウイルス感染症対応のため中止
評価委員4名に資料を送付
 - 第2回 令和2年11月27日（金）新型コロナウイルス感染症対応のため中止
評価委員4名に資料を送付
 - 第3回 令和3年2月25日（木）新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン（Zoom）で実施
評価委員4名参加

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・施設面（特にトイレ）での要望が多かった。
- ・部活動での教員の負担について、検討が必要。

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月	全校生徒	対象： 931人	回収： 873人	回収率： 93%
・12月	保護者全員	対象： 931人	回収： 430人	回収率： 46%
・12月	地域・住民	対象： 20人	回収： 0人	回収率： 0%
・12月	教職員	対象： 58人	回収： 19人	回収率： 33%

(3) 主な評価項目

- ・※学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、東京都教育委員会より、昨年度3月から今年度6月まで臨時休校措置命令が下された。その間の生活習慣維持と学習時間の確保のためにオンライン（Zoom）によるホームルーム・学活を実施し、Classi、スタディサプリを活用した学習支援クラウド、授業動画配信等で対応した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策、学習機会確保に関しては「適切である」と評

働かれている。昨年度までの施設への要望は、トイレの回収や清掃の徹底により大幅に減少した。例年、学校生活、学習指導、生活指導などの満足度は肯定的な答えが多いが、今年度は校外学習を含め学校行事がほとんど中止になったため、「満足した」という回答が少ない。また、部活動も中止であるため、充実度については昨年度を下回った。進路指導に関しては、6年生の満足度が比較的高く、他学年より上回っている。6年生へのオンラインでの対応や学年担任、進路指導部の指導が適切で、入試の変化の学年でもあることが影響していると推測される。進路情報について、生徒だけではなく、保護者にとってもわからないことが多いので、保護者向けの説明会等のサポートも今後必要である。入選に関して、応募者が985名と全都立中等教育学校、中等教育学校で最も志望者が多かった。学校説明会は対面で実施できなかったが、動画配信や生徒向けの授業動画の中で一般にも公開されているものを見て、「この授業であるなら信頼できる」と保護者が判断して、志願者を増やしたのではないかと推測できる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・昨年に引き続き、生徒の学習環境を改善するためにも、現在の学校施設や設備の更新や修繕を行う必要がある。学習効果に影響が大きいことなので早急に取り組む必要がある。
- ・大学入試や社会状況の変化をふまえ、進路指導の更なる充実が求められる。働き方改革をふまえて行事や部活動などの学校生活全般のバランスも大事になる。
- ・前身の府立高や都大附高の良い伝統を引き継いで更に発展させていく。
- ・海外大学進学者への対応、グローバル人材の育成を目指したリーダーシップ育成研修の企画・実施等に対して賛同を得ることができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民は、学校との連携をするために情報発信を期待していることが分かった。
- ・地域の人材活用を一層推進するとともに公開講座等の拡大充実、防災等における連携が必要である。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、学校評価アンケートの自由記述欄を公開するなど、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

【教務部】

- ・報告：新型コロナウイルス感染症拡大防止による休業、時差登校、分散登校、短縮授業、学校行事予定の変更等、何度も変更があり、対応に追われたが、大きな支障がなく、対応することができた。新学習指導要領に基づく教育課程の原案を作成した。名称等今後検討、決定する。
- ・課題：特に前期課程の授業時間の確保が必要である。週末の学習時間が不十分である。
- ・改善案：考査後の午後の授業カットを短縮時程にするなど授業確保に努める。土曜日、日曜日のどちらかに休日を確保する。

【生徒部】

- ・報告：新型コロナウイルス感染症拡大防止による休業、時差登校、短縮授業、学校行事の中止・変更、部活動中・制限等、何度も変更があり、対応に追われたが、対応することができた。健康観察票の集配、サーモグラフィ設置、朝の健康観察指導等生徒部全体と担任、副担任の協力を得て、やり通すことができた。記念祭（文化祭）、クラスマッチ（体育祭）、合唱コンクールも自治会と実行委員会を中心にルールに沿った形で実施することができた。登下校の時間が変化するたびに、通学電車内のマナー、駅からの通学路でのマナーに関して、地域住民から苦情が出たので、今後も指導を徹底したい。
- ・課題：①生徒の規範意識の向上（遅刻、あいさつ、清掃等）
②生徒の自治活動の活性化・自治意識の醸成
③リーダーシップをとることのできる生徒の育成
- ・改善案：①集会での教員からの注意喚起。各クラス担任からの注意喚起。
前期生活委員会、中央委員会による登下校時の注意喚起。
②中央委員と自治会役員の企画による生徒部教員との意見交換会

【進路指導部】

- ・報告：生徒個人に応じた進路指導を心がけ、志望校検討会を年2回実施し、模試結果を参考にし、本人の志望について確認をした。また校内研修会を開催し、データに基づいた進路指導体制を強化した。生徒の主体的な進路決定のため、進路説明会、模試の振り返り集会、社会人講話「学フォーラム」、「卒業生講話」、「京都大学学びコーディネーター事業」、などの進路行事を実施し、進路について積極的に考える機会を設けた。職場体験を行うことができず、2年生のキャリア教育が十分に行えなかった。学年、教科、分掌間の協力を目指し、模試の振り返り集会で何を生徒に伝えるか等、学年と進路で連携できた。特に5年生12月からの意識づけとして、第一志望宣言の提出と共通テスト模試の導入をした。その効果について検証し、教科、学年、進路がその目的を共有してさらに有意義な活用をすることが課題である。
10期生の進路結果としては、共通テスト5-7型受験者71名。目標値90名を下まわった。そのうち900点満点のうち8割以上の得点者は33名で46%だった。60%の目標値には届かなかった。この割合を高めるのが今後の課題である。
- ・課題：10期生の進路結果でセンター試験5-7型受験者71名であった。目標値90名を上回るのが課題である。
- ・改善案：①共通テストの分析と重点項目の整理及び対策を授業に反映させる。
②新学習指導要領を見据えた「思考力・判断力・表現力」を育成する授業力を身に着けることができるよう全教員で研修に取り組む。

【総務部】

- ・報告：新型コロナウイルス対策のため、例年とは抜本的に異なる広報活動に努め、適性検査応募者が都立中高一貫校10校中最多という結果を得た。新型コロナウイルス対策は次年度も継続すると考えられるため、今年度の経験をもとに、より効果的な広報活動を構築していきたい。次年度は、ICT関係の整備に注力していきたい。これまで、学校説明会、適性問題解説会、ようこそ小学生の参加申し込みをはがきで行っていたが、今年度からHPからオンラインで行うことができるようにシステムを構築した。
- ・課題：来年度ICTリーダーが総務部から互選される。GIGA構想によって前期課程の生徒全員にノートPCが配布され、全校規模でWi-Fiが導入される。
- ・改善案：ICT支援員とも協力し、機器の保全・管理に、組織的対応ができるようにする。

【国際理解教育推進部】

- ・報告：コロナによる不可抗力とはいえ、やりたかった活動はほとんどできなかった。来年度は分掌そのものがないが、このような状況でなければ、次世代リーダーや、海外研修、海外大学進学相談など仕事は多いので、来年度どこの分掌でもカバーするかなどの話し合いは必要であると考えます。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 10人 (回答)
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	5					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 17回 延 1190人 企画調整会議 39回 延 707人

【成果】 s

8 その他

- ・保護者・地域住民のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、アンケートを紙とオンラインで集計するなど回収率の向上に努める。特に地域住民からの回答が0名であったことから、紙での実施に戻すことを検討する。
- ・新学習指導要領実施に向けて本校の進捗状況について、その理念に基づいたカリキュラムの実現に向けて是非、チャレンジしてほしい。新学習指導要領には、新たな取り組みとして理科教育の重視が掲げられている。理科好きの生徒が増えてくれると大変うれしい。
- ・コロナ禍の中、先生方のワークライフバランスをこれからどう取り組んでいくのか考えてほしい。
- ・目的意識を持たせた桜修館の取り組みに非常に感心した。AO入試についての指導、対応については、数こそ少ないが日頃の探求心を育む取り組みが生かされている。東工大学、東大、慶応大学 FIT 等に挑戦する生徒がいる。
- ・教育全般に生徒の足りない部分を指導するのではなく、良いところを伸ばす指導をするとより生徒は伸びるかもしれない。
- ・学校評価アンケートの満足度は、学年によってばらつきが見受けられるが、コロナ禍において学習機会と生活習慣の維持を重点に、十分取り組んでくれた。
- ・先生が受験指導に熱心だと生徒は感じ取る。生徒を信頼し、自ら学び続ける骨太の教育を心がけると生徒が図太さや粘り強さを身に付けるのではないか。